

第 I 部

ラジオ の 時代

1 ラジオ開始と放送網拡大 樋口 喜昭 …… 13

2 ラジオの戦後復興から黄金時代へ 岡部 匡伸 …… 35

3 Column 「ラジオ塔」というメディア遺構 丸山 友美 …… 59

4 Column ラジオを用いた〈メディア遊び〉の系譜 溝尻 真也 …… 69

この時代の概況

19世紀の後半から、電信や電話の発達によって新たなコミュニケーションの形態が生まれた。そして、20世紀に入ると、人々の声を電波に乗せるラジオが登場する。1920年、アメリカで始まったラジオ企業化の波は、たちまちヨーロッパ諸国や日本

に広がった。

日本では1925(大正14)年3月、ラジオ放送が始まった。人々は、家庭で鉱石ラジオのレシーバーに耳を押し当てて放送を聴いた。開局の記念式典の挨拶で、東京放送局の後藤新平総裁は、放送の目的と役割について、文化の機会均等、家庭生活の革新、教育の社会化、経済機能の敏活の4つを挙げた。ラジオ放送は同年6月に大阪、7月に名古屋でも始まった。

ラジオ放送が始まると、通信省は早くも日本の放送事業のあり方について検討を進め、全国放送網を作る方針のもと、1926年、東京、名古屋、大阪の3局が合同して社団法人・日本放送協会が設立された。日本放送協会は、北海道、東北、中国、九州にも支部を設立し、1928(昭和3)年には7つの放送局を結ぶ中継放送網が完成した。放送網の広がりとともに、受信機の普及も進んだ。当初、ほとんどの人は鉱石ラジオで放送を聴いていたが、次第に真空管式ラジオに置きかえられていった。そして、1920年代末ごろからは、電灯線から電源を取るエリミネーター式受信機が家庭に入りはじめ、家族そろってラジオを聴くスタイルが都市部では見られるようになった。

1931年には、東京で第2放送(二重放送)が始まった。二重放送は当初、鉱石ラジオで2つの電波をきれいに分離できるかが不安視されたが、簡単な改修で混信を避けることができた。二重放送は1933年に大阪と名古屋でも始まり、教育番組やスポーツ中継が充実していった。番組の発達とともにラジオ契約数も増え、1932年に全国で100万件を突破し、その後、1939年に400万件、1940年に500万件を超えた。

もっとも、日本のラジオ受信機は性能がよいものとは言い難かった。国内では1929年ごろから、4個の真空管を組み合わせた並四受信機、通称「並四(なみよん)」の生産が始まったが、音質が悪く、大きな音も出なかった。欧米で

は、高性能のスーパーヘテロダイナ方式が受信機の主流になっていたが、日本では普及が優先され、安価な受信機が広く出回っていた。このため、日本放送協会は1938年、より性能が高く故障も少ない「放送局型受信機」の統一仕様を制定し、戦時下、普及運動を展開した。

しかし、太平洋戦争下、空襲などによってラジオは送信施設、受信機とも大きな被害を受けた。ラジオの世帯普及率は40%を切り、焼失した受信機は150万台に上った。このため、戦後復興では、放送施設の整備と並んでラジオ受信機の増産が課題になった。1946年には、逓信省や日本放送協会、メーカーが、性能を抑えて普及を優先した標準受信機として「国民型受信機」を制定したが、生産量が少なかったことに加え、激しいインフレもあり、多くの人々はこの受信機でさえも手に入れることが難しかった。

ただ、経済が急速に復興し、1951年以降、各地に次々と民放が開局していくと、ラジオの受信機も変化していく。国内では依然として「並四」がラジオの主力だったが、民放の開局で混信が懸念されたことから、行政と民間が協力してラジオ受信機の改良運動が進められた。そして、新たな受信機の開発と量産化が進んでいった。NHKのラジオ契約数は1952年に1,000万件を突破し、1958年には1,480万件とピークに達した。民放も新しい娯楽番組を次々と登場させ、1950年代、ラジオは全盛期を迎えた。1955年には、東京通信工業（のちのソニー）がトランジスターラジオを発売、ラジオとテレビが併存する時代が始まりつつあるなか、ポータブルラジオの登場でラジオの役割や機能も変化していった。

第I部「ラジオの時代」では、ラジオの放送網がどのように拡大したのか、また、当時の送信・受信技術がどのようなものだったのかについて検討を行った。さらに、戦後のラジオ受信機がどのような軌跡をたどったのかを検証した論考を掲載したほか、受信機の自作文化や、ラジオ普及の契機となったラジオ塔についても考察を行った。

■年表

1920年	アメリカKDKA局がラジオ放送開始
1922年	イギリス放送会社（BBCの前身）がラジオ本放送を開始
1923年	関東大震災
1925年	ラジオ放送開始（東京に続き大阪、名古屋で放送開始） 東京放送局が愛宕山から本放送開始
1926年	東京・大阪・名古屋放送局が合同し日本放送協会設立 高柳健次郎、「イ」の字をブラウン管に映し出すことに成功
1927年	最初のスポーツ実況中継（全国中等学校優勝野球大会）
1930年	日本放送協会技術研究所設立
1931年	ラジオ第2放送開始
1932年	録音放送の始まり（フィルム録音）
1935年	海外放送開始
1939年	テレビ実験放送開始
1940年	初のテレビドラマ実験放送
1946年	テレビの研究再開（太平洋戦争で中断）
1948年	戦後初のテレビ公開実験
1950年	電波三法（電波法・放送法・電波監理委員会設置法）施行
1951年	民放ラジオ開局